男女共学ジェンダー部会が参加する
「ぐんま公立高校男女共学を実現する会学習会」
性別による入学制限は人種差別と同じー　群馬・栃木・埼玉の恥

2015 年 11 月 29 日（日）午後、高崎市中央公民館視聴覚集会室において学習会が開かれました。関東３県男女共学推進ネットワーク主催により２年がかりのとりくみとして実現したものです。

公立高校別学率１位群馬（23.5％）２位栃木（18.6％）３位埼玉（8.5％）、特に男子校は３県の他に鹿児島の２校を数えるのみで他は皆無、北関東３県に集中している現状を齋藤周代表（ぐんま公立高校男女共学を実現する会）が紹介し、さらになぜ共学をめざすのかについて５点にわたって説明しました。

「対談：浅野史郎さんに聴く
ー県立高校の男女共学化ー」

対談は浅野史郎さん（前宮城県知事）、聞き手は天野清子さん（宮城県立高校男女共学化の着実な実現を求める会◇のちに県立高校共学教育の充実を求める会）。

「対談の論点は（１）厳しい反対の中で宮城県がいかに実現したか、（２）３県膠着状況を開く道はどこにあるかの二つです」とコーディネーターの内藤和美さんが前置きされてスタートしました。

（１）宮城県での実現の道
－教委の決定と知事の責任－

1995 年「魅力ある県立高校づくり推進会議」以降共学化の検討・推進が進み出した。「浅野知事がいたから実現できたことに尽きるのでは」に対して、「いや、共学は教育委員会が決めたこと。教育のことは教委にまかす。知事は予算に責任をもち、口を出す」と断言。仙台第二高出身の浅野さんは「別学はいいことだと思っていた」とのこと。ある時共学の説明を受けて「だけど全部しなくてもよいのでは」と言うと「それはダメです。基準がない」と即答があり、納得。1999 年 9 月県議会で知事として共学化を表明、2001 年県教委が「将来構想策定」を発表し、全ての県立高校の共学化を打ち出す。別学派より反対の声が上がる中、議員提案の「男女共同参画推進条例」が成立。そこに「男女共生教育の推進」が掲げられる。前期計画が進み、後期計画が発表されるなかで、仙台二高同窓会等が「共学化見直し・凍結」の議会請願を行い、一方で求める会は「着実な実現」を陳情する。県議会は双方の意見陳述の場を設けるも結局教委は「仙台二高 1 年生のみ延期」を決定。求める会は「着実な実現」の陳情を重ねる。2005 年 10 月の県知事選で村井嘉浩氏が当選すると別学共学併存を主張。そこで 11 月、求める会は「共学化の着実な推進と仙台二高の 19 年度共学化を求める」請願を県議会に提出し、全会一致で採択された。これは郡部出身の議員が多く、主要地立地の進学校への反発があったかと思われる。2010 年 4 月、宮城すべての県立高校が共学化した。2011 年「県立高校共学教育の充実を求める会（名称変更）」が発足

し、将来構想審議会の「高校改革」検証の報告や答申に対してそのつど「充実を求める意見書」の提出を続けて現在にいたる。

(2)3県膠着状況を開く道
－議員の意識そして求める会－

共学実現以降、仙台二高に優秀な女子が集まり進学実績を上げ、また女子が応援団長になるなど新しい伝統を築きつつある。知事は予算執行者としてあくまで公正さを求める立場にある。税金を使って成立する公立高校に性別をもちこむのはおかしいことだ。３県とも知的水準ある知事ならわかることだ。共学化の運動は女性の地位や平等、共同参画の問題ではなく税金の使い方の問題である。突破口は県議会にあると思う。宮城の場合、議員提案の条例が成立して相乗効果を上げた。議員の多数派は郡部出身で、出身校が共学化された人も多いはず。その人たちの意識はどうか。一人一人当たってみたらよい。県議会は二元代表制（※注）で、知事も議員も県民から選ばれた県民代表として切磋琢磨する対等の存在だ。二元代表制を機能させようと言いたい。

◆浅野史郎さん談

宮城では、教育長を何度もたずねて面談し、若い課員に働きかけをした。全力投球だった。

県議会の全会派を回って説明し、議員さんを味方にしてネットワークをつくりアドバイスを受けた。「宮城県の常識は世界の非常識」と訴えてきた。

◆天野清子さん談

天野さんの鋭い問いかけによくからんで、ユーモアと率直さで明快に語られた浅野さん。対談が楽しく聴きごたえありの実感でした。今後の大きな課題も見えてきました。参加者は 43 人でした。

《報告：松田　康子》

（※注）二元代表制

住民が直接選挙で、首長と議会の議員を別々に選ぶ制度。首長の権限は予算や条例などの議案提出や人事など幅広い。議会は議案の議決などで首長の行政運営を監視する。首長は議会から不信任を受けた場合に限り、対抗策として議会を解散できる。

●公立高校別学率全国ランキング（全日制，2016年度）

都道府県	女子校	男子校	計	公立高総数	別学率
群馬県	9	7	16	68	23.5%
栃木県	6	5	11	59	18.6%
埼玉県	7	5	12	142	8.5%
鹿児島県	3(2)	2(1)	5(3)	68	7.4%
和歌山県	1(1)	0	1(1)	31	3.2%
島根県	1(1)	0	1(1)	35	2.9%
福岡県	2(2)	0	2(2)	102	2.0%
千葉県	2	0	2	128	1.5%
宮城県	1(1)	0	1(1)	69	1.4%
上記以外	0	0	0		0%
計	32(7)	19(1)	51(8)		

＊表中の(　)内は県立以外の別学公立高校数で，内数。

＊東北地方南部には，関東地方北部と並んで別学の公立高校が多かったが，福島県は，2003年度までに全校が共学になった。宮城県は，県立高校については2010年度から全校が共学になった。また，秋田県は，2016年度で全校が共学になる。